# TNFD (Taskforce on Nature-related Financial Disclosures) の最新状況

TNFD タスクフォースメンバー MS&AD インシュアランス グループ ホールディングス TNFD 専任 SVP / MS&AD インターリスク総研 フェロー

原口真

### はじめに

2022年12月に開催された生物多様性条約第15回締約国会議(CBD COP15)第二部で採択された「昆明・モントリオール生物多様性枠組」において「2030年昆明-モントリオールターゲット」のターゲット15として、次のようにビジネスや金融機関が、生物多様性に関わるリスク、依存、影響について開示をするために締約国が措置を講じるという決議がされた。

生物多様性への負の影響を徐々に低減し、ビジネス及び金融機関への生物 多様性関連リスクを減らすとともに、持続可能な生産様式を確保するための 行動を推進するために、ビジネスに対し以下の事項を奨励してできるように しつつ、特に大企業や多国籍企業、金融機関については確実に行わせるため に、法律上、行政上、又は政策上の措置を講じる:

(a) 生物多様性に係るリスク、生物多様性への依存及び影響を定期的にモニタリングし、評価し、透明性をもって開示すること。すべての大企業並びに多国籍企業、金融機関については、業務、サプライチェーン、バリューチェーン、ポートフォリオにわたって実施することを要件とする;

(環境省暫定訳、2022年12月22日)

この決議は、本稿で紹介する、TNFDのアプローチと整合したものであり、 こうした市場関係者の提言が、国際条約の決議に影響を与えるようになって いる。

# 1. TNFD(自然関連 財務情報開示タスクフォース)発足の経緯と概要

#### (1) 発足の経緯

CBD COP14 (2018年) で採択された決議 14/3. において「生物多様性の 主流化に関するビジネスおよび金融セクターの参画を促進するための戦略を 策定する。」という文言がある。CBD では、締約国政府の取り組みだけでは、 生物多様性の損失は止められず、条約の目的を果たせないという認識に立ち COP8 (2006 年) 以降、企業 (ビジネス) の参画を締約国に促す決議が採 択されていたが、COP14の決議で民間の金融セクター参画の重要性につい てもあらためて言及された。

ここを画期として、世界経済フォーラム(WEF)などによる自然関連の リスク管理と情報開示の必要性を謳う民間主導の運動が始まり、2020年7 月に TNFD 設立を呼び掛けるイニシアティブが発表された。設立パートナー である Global Canopy、UNDP(国連開発計画)、UNEP FI(国連環境計画・ 金融イニシアティブ)、WWF(世界自然保護基金)の支援により、2020年 9月から2021年6月まで準備のための非公式ワーキンググループが開催さ れた。

2021 年 6 月、TNFD は金融機関、企業、政府、市民社会から広く支持され、 正式に発足した。G7 と G20 は、TNFD の設立を支持した。

# (2) TNFD タスクフォースの使命と体制

TNFD は開示フレームワークの開発を通じて、世界の金融や資本の流れ を自然にとってマイナスの状態からプラスの状態へとシフトさせるようサ ポートすることを究極の使命と考えている。

タスクフォースは、2名の共同議長のもと、金融機関、企業、市場サービ スプロバイダーの上級管理職 40 名で構成されている。共同議長は、金融市 場と生物多様性保全のそれぞれの中心で活躍してきた2名であり、TNFD の究極の使命を象徴している。

# 2. 気候リスクとのつながりと異なるアプローチ

#### (1) 気候と自然の統合 (Climate-Nature Nexus)

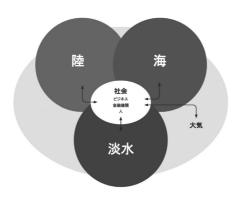
気候変動と自然の喪失は、同じコインの両面であり、同時解決を目指さな ければならない課題であるという見解が、国際的な共通認識になり始めてい る。

2015年のパリ協定採択を画期として、世界の金融セクターは、気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)による開示提言に代表されるように、気候関連リスクと機会に注目し始めた。これによって、気候変動緩和・適応分野への投資が急増したが、バイオ燃料が食料との競合を起こしたり、気候適応のための防災グレーインフラストラクチャーによって自然が劣化したり、脱炭素社会への移行のためのレアメタルの需要増によって生物多様性ホットスポットが開発されたりするなどの自然にマイナスな結果を引き起こしている。一方で、森林破壊が止まらないことによって、重要な二酸化炭素の吸収源が急速に失われている。

# (2) ロケーション・アプローチ - 気候リスクとの相違点

気候リスクは、温室効果ガス (GHG) の排出量を影響要因として、世界中どこでも同じ方法で評価することができる。また、GHG は地球を循環する大気に排出されてから気象現象に影響を与えるため、多く排出した国や企業が一番大きなリスクを受けるといったメカニズムにはならない。

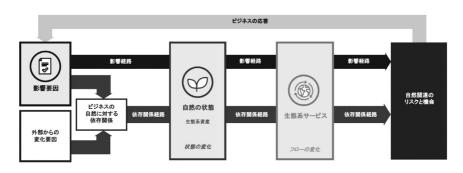
一方で、自然は、この大気、陸、海、淡水という4領域で構成され(図1)、この中に、生物群系(バイオーム)や生態系といったさまざまな自然のタイプが存在する。したがって、企業と自然との接点は、ロケーション(地域)ごとに異なり、また同じロケーションであってもセクターによって自然への依存や影響の関係は異なってくる。例えば、同じ熱帯雨林という生物群系であっても、インドネシアとブラジルの熱帯雨林では生態系が異なる。そして同じ生態系の中にある同じロケーションでも、そこで操業している飲料工場と鉱山会社では、自然との接点は大きく異なるものになる。



© TNFD、2022 (筆者による仮訳)

図1 自然の4領域と社会・経済の関係

企業がもたらす影響要因が、企業が依存し影響している生態系資産にマイ ナスまたはプラスの変化を起こす。その結果、その自然の状態から供給され る多様な生態系サービス (フロー) が変化し、企業にリスクや機会をもたら すというメカニズムが働く。(図2) したがって、自然を多く損失させた地 域や企業ほど、大きなリスクを受けるといったことが起こりやすい。



© TNFD、2022 (筆者による仮訳)

図 2 自然関連の依存関係、影響、リスク、機会の関係

# 3. TNFD の開示提言案

#### (1) オープンイノベーションによるアプローチ

TNFD は、2023 年 9 月にフレームワークの最終提言を行うことを目指している。これを実現するため、TNFD は、あらゆるステークホルダーからの意見を歓迎するオープンイノベーションによるアプローチを採用している。フレームワークのベータ版(草稿版)を 4 回リリースすることによって、企業や金融機関から継続的なフィードバックやパイロットテストからの洞察などを受け、また、幅広い関連組織から専門的意見を得ている。

初のベータ版 (v0.1) は 2022 年 3 月、v0.2 は 6 月、v0.3 は 11 月に発表された。今後は、2023 年 3 月に v0.4 をリリースする予定である。

#### (2) 開示提言の要点

TNFD の開示提言案の構成は、TCFD (気候関連財務情報開示タスクフォース)の四つの柱であるガバナンス、戦略、リスク管理、指標と目標に沿っており、これにより、TNFD は市場参加者による統合的な(TCFD+TNFD)持続可能性に関連した情報開示に向けた動きを促進・奨励することを意図している。

CBD COP15 の決議に基づいて締約国政府が企業や金融機関に情報開示を 奨励する際の、自然関連の依存関係、影響、リスク、機会を特定、評価、管 理するためのフレームワークを示している。

#### 表 1 TNFD 自然関連財務情報開示提言(v0.3)

### TNFD 自然関連情報開示提言 (v0.3)

#### リスクと影響の管理 ガバナンス 戦略 指標と目標 自然関連の依存関係、影響、リス 自然関連の依存関係、影 白然関連リスクと機会が、組織 組織が、白然関連の依存関係 響、リスク、機会に関する組 の事業、戦略、財務計画に与え 、影響、リスク、機会をどのよう ク、機会を評価し管理するために 織のガバナンスを開示する。 る実際および潜在的な影響を、 に特定、評価、管理しているか 使用される指標と目標を開示す そのような情報が重要である場 を開示する。 る(かかる情報が重要である場合 合に関示する。 推奨された関示 推奨された関示 推奨された関示 推奨された関示 A. 自然関連の依存関係、影響、 A. 組織が短期、中期、長期に A. 自然関連の依存関係、影 A. 組織が戦略およびリスク管 響、リスク、機会を特定し、評価 リスク、機会に関する取締役会 わたって特定した、自然関連の 理プロセスに沿って、自然関連 の監視について説明する。 依存関係、影響、リスク、機 するための組織のプロセスを リスクと機会を評価し管理する 会について説明する。 説明する。 ために使用している指標を開示 B. 自然関連の依存関係、影響、 リスク、機会の評価と管理にお B. 自然関連リスクと機会が、 B. 自然関連の依存関係、影 ける経営者の役割について説 組織の事業、戦略、財務計画に 響、リスク、機会を管理するた B. 直接、上流、そして必要に応 与える影響について説明する。 めの組織のプロセスを説明す じて下流の依存関係と自然に 明する。 対する影響を評価し管理するた C. 様々なシナリオを考慮しな めに組織が使用する指標を開 がら、組織の戦略のレジリエン C. 自然関連リスクの特定、評 示する。 スについて説明する。 価、管理のプロセスが、組織全 体のリスク管理にどのように組み C. 組織が自然関連の依存関係 D. 完全性の低い生態系、重要 込まれているかについて説明す 、影響、リスク、機会を管理する ために使用している目標と、目 性の高い生態系、または水ス トレスのある地域との組織の 標に対するパフォーマンスを説 相互作用について説明する。 D. 自然関連の依存関係、影 明する。 響、リスク、機会を生み出す可 能性のある、価値創造に使用さ D. 自然と気候に関する目標が れる投入物の供給源を特定す どのように整合され、互いに貢 るための組織のアプローチを 献し合っているか、またトレード 説明する。 オフがあるかどうかを説明する。 E. 自然関連の依存関係、影 響、リスク、機会に対する評価 と対応において、権利保有者を 含むステークホルダーが、 組織 にどのように関与しているかを 説明する。

© TNFD、2022 (筆者による日本語訳一部修正)

# さいごに

本寄稿もそうであるが、国内の関連省庁、学会等からの TNFD に関する解説の要請が引きも切らない。これが、関係各位のネイチャーポジティブに向けた行動を開始する契機となれば幸いである。

#### [参考文献]

- 1) Decision 14/3 of the CBD COP14 "Mainstreaming of biodiversity in the energy and mining, infrastructure, manufacturing and processing sectors" (CBD, 2018年11月)
- 2) The TNFD Nature-related Risk and Opportunity Management and Disclosure framework beta v0.1 (TNFD、2022年3月)
- 3) The TNFD Nature-related Risk and Opportunity Management and Disclosure framework beta v0.2 (TNFD、2022 年 6 月)
- 4) The TNFD Nature-related Risk and Opportunity Management and Disclosure Framework beta v0.3 (TNFD, 2022年11月)
- 5) Agenda item 9A of the CBD COP15 "Kunming-Montreal Global biodiversity framework"(CBD、2022年12月)